



2022-2023

Portfolio





PROFILE



東京デザイナー学院 インテリア学科 空間演出デザイン専攻

かしむら ななみ

榎村 七海 / Kashimura Nanami

ABOUT ME

・出身

茨城県龍ケ崎市

・趣味

友人たちと遊ぶこと、読書、寝ること

・入学したきっかけ

中学生の頃からコンサートや舞台に行くことが好きで、
いつか自分も非日常空間を作る側に立ちたいと思ったから。

・学歴

2023 茨城県立取手第二高等学校 普通科

卒業

2024 東京デザイナー学院 インテリアデザイン学科

在学中

空間演出専攻

SKILL

パース検定 2級

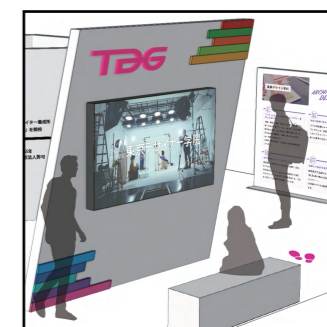
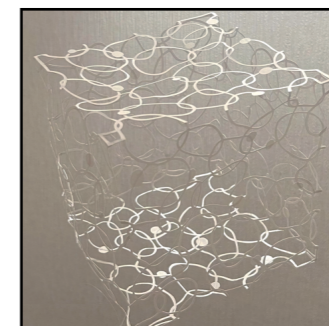
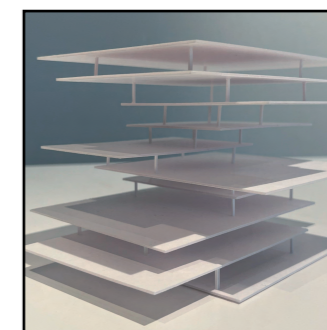
日本漢字検定準2級

普通自動車第一種運転免許 (AT 限定)

SOFTWARE

Illustrator / Photoshop / VectorWorks

CONTENTS



魔女の椅子

課題テーマ：スモールスペースの美術設定を考え、その中心にある「アームチェア」をデザインする / 空間造形ゼミ



「荒地の魔女とともに生きる椅子」というコンセプトでこの作品を制作しました。

模型制作でこだわった点は、テーマの世界観がひと目で伝わるような背景です。

怪しげな木。荒れた地面。古びた椅子にふわりと乗せられた帽子。そしてそこに立てかけられた杖。

さまざまな要素を丁寧に作り込むことで、誰が見ても「魔女」や「魔法使い」を連想することのできる作品になったと思います。

実寸制作では、表面の加工を最もこだわりました。

「茶色、黒色のペンキを塗布し乾く前に布で擦り、やすりをかける」という作業を納得のいくまで繰り返すことで、古びた雰囲気を演出しました。



- ①銅線を捻りながら木の形を作る
- ②木のごつごつとした質感を再現するために紙粘土に水を混ぜたものを塗布し乾かす
- ③絵の具で着色（緑色を上から重ねることによりリアルに）



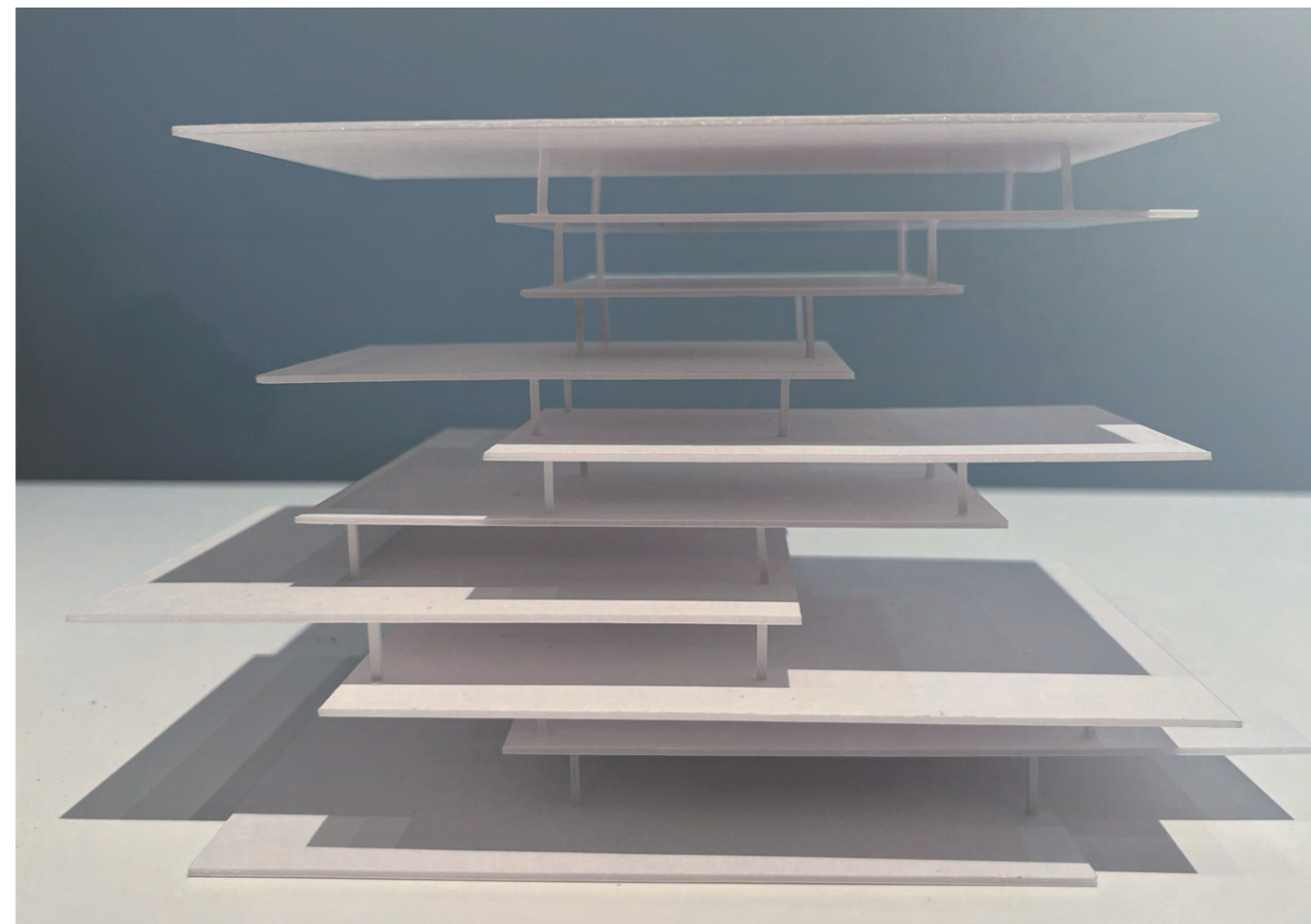
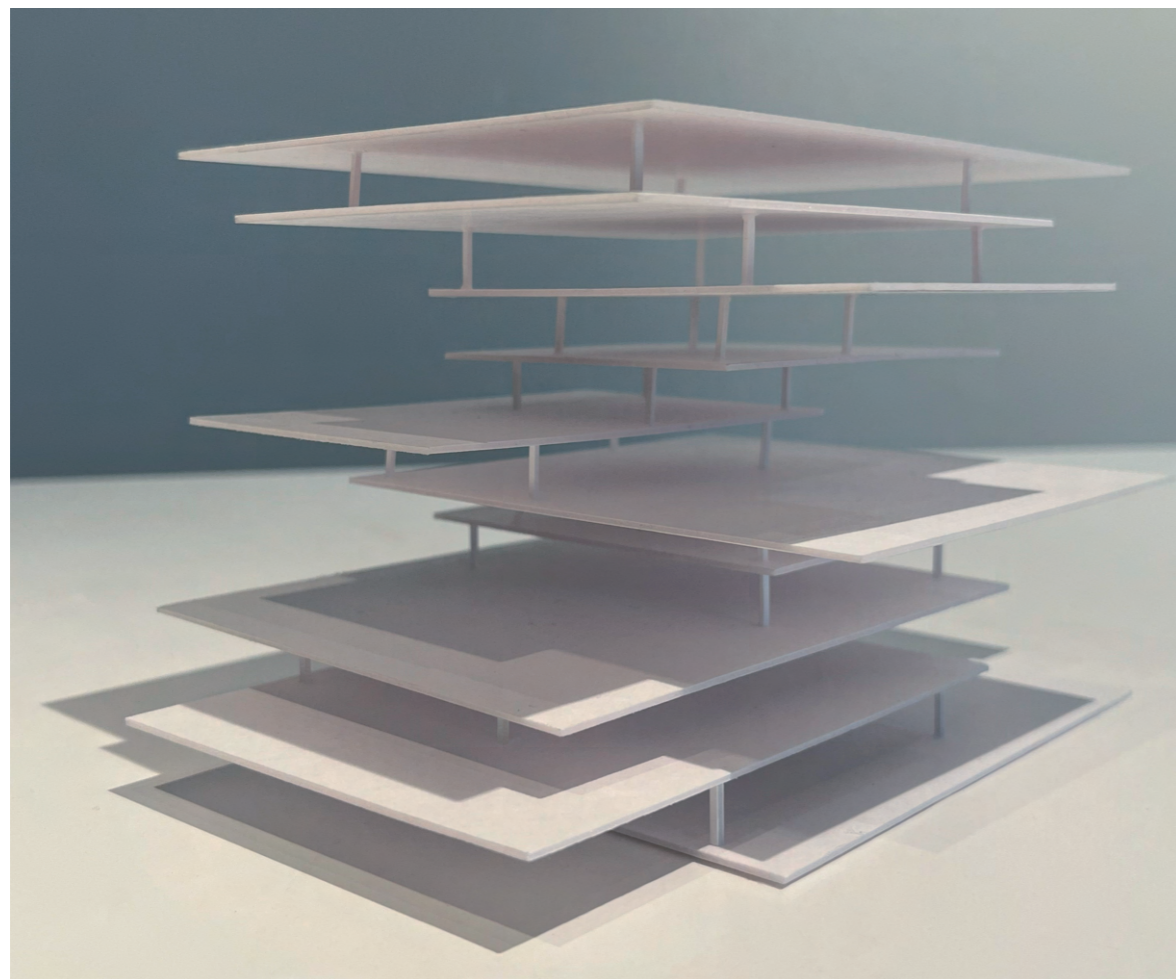
- ①組み立てた椅子の模型にベースの色を着色
- ②暗めの茶色と緑色を重ねる
- ③角張った部分や座った時に触れる箇所をやすりであえて雑に削る



- ①あらかじめベースを凸凹にする
- ②土のようなテクスチャの画材を上から重ねる

知識と経験

課題テーマ：東京デザイナー学院の60周年を記念した祝賀会が行われると仮定し、その際に会場のロビーに設置するモニュメントのデザインを考える。素材は基本「紙」「スチレンボード」のみとする / ID 実習3



この作品のコンセプトは「積み重ね」です。

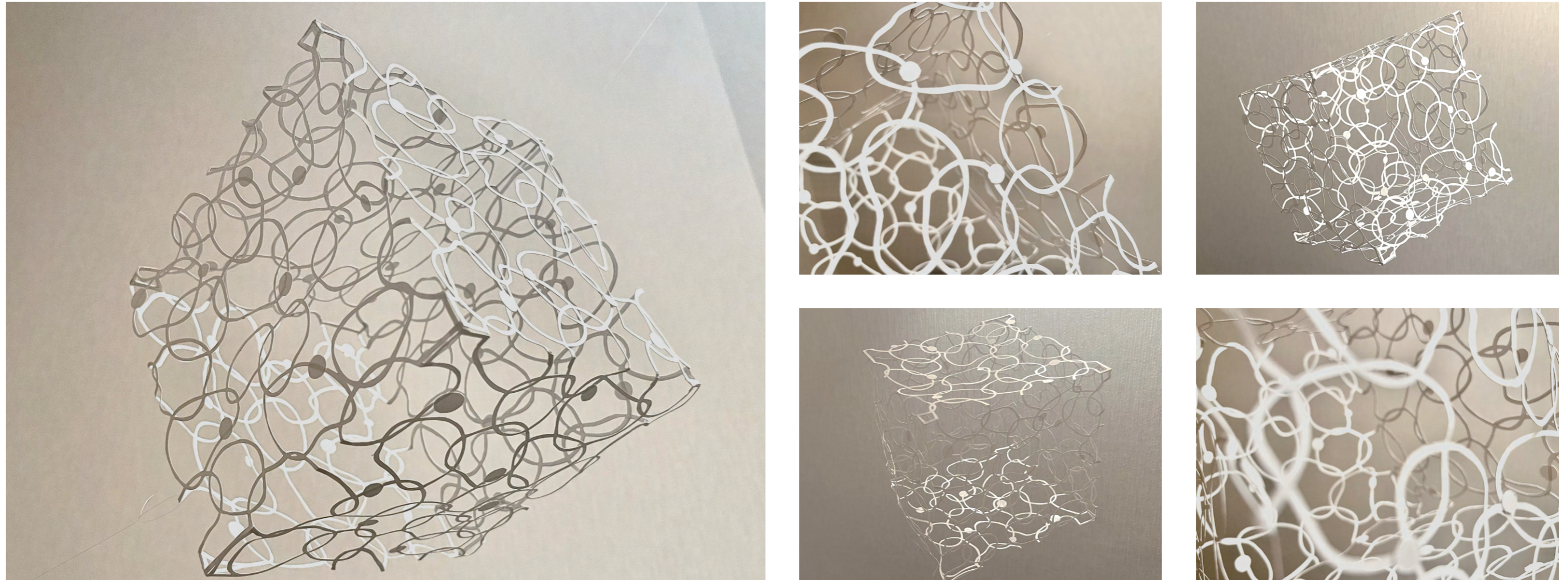
私は課題テーマから、学びや経験を可視化できるような作品が作りたいと思いそのアイデアを形にしました。

形や大きさの異なるボードは、今まで経験してきたことや学びから得た知識です。

物事によって大小はあるかもしれませんが、何かを経験した結果、得たものが全くのゼロなんてことは絶対にはないと思っています。

成功であっても、失敗であっても、何らかの発見や心情の変化は必ずあるはずです。

「塵も積もれば山となる」ということわざがあるように、ひとつひとつの些細な経験も積み重なれば大きな知識や自信に繋がるという意味を込めて、上にどんどん重なっていくデザインにしました。



「水」という大きなテーマから、泡が浮かび上がっては消えていく儂い情景が浮かび、そこからイメージを膨らませて制作しました。

タイトルの泡沫は、（ほうまつ、うたかた）の2種類の読み方がありますが、水とそこに浮かび上がる泡の儂さを表現しているので、「うたかた」と読んでいただきたいです。

こだわったのは、全ての面につながりを持たせた点です。どこの角度から見ても不規則な円が途切れないようにひとつひとつ丁寧に切り抜きました。また、表面には泡がぶくぶくと音を立てている様子をイメージした小さな円を散りばめました。

水面を揺れ動く泡の儂さや水の透明感を表すことができたのではないかと思います。

TDG 展示会ブース

課題テーマ：東京デザイナー学院を紹介するブースのデザインを考える / イベントデザイン

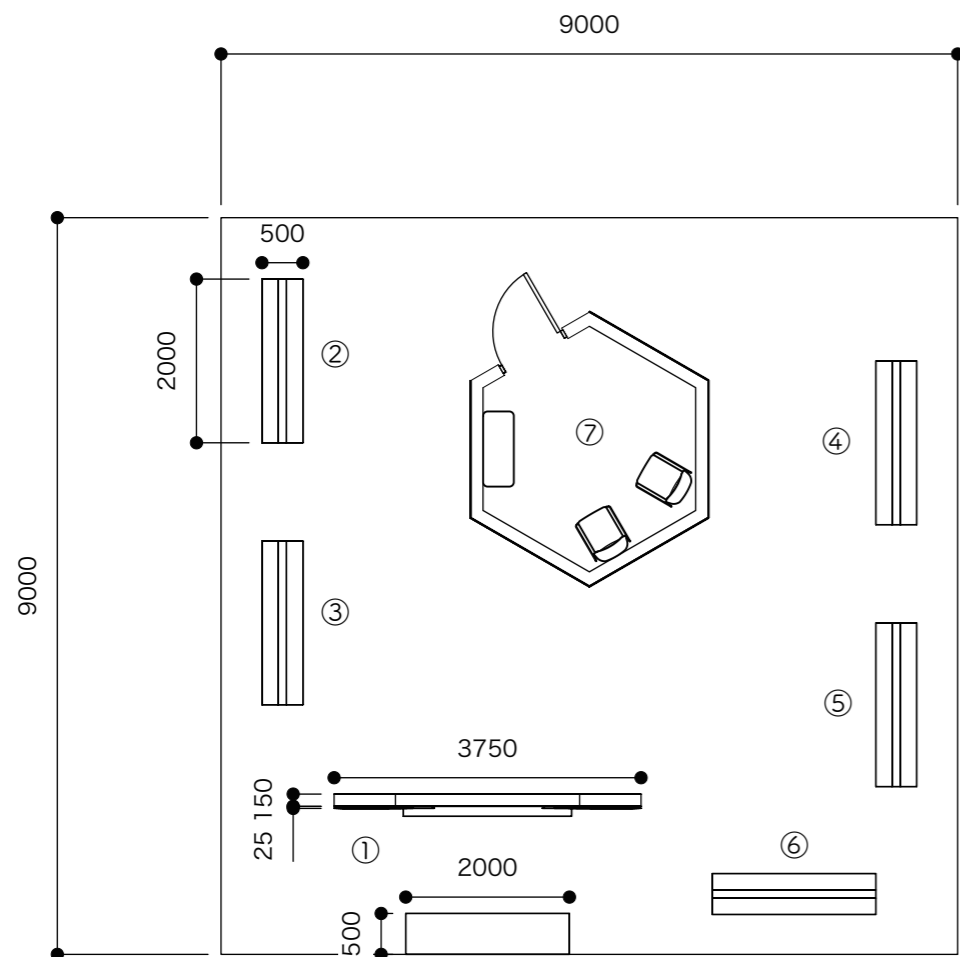


手前のモニターのあるパネルは、東京デザイナー学院にある10学科に合わせて10色をラインを入れました。

5つのパネルには片面に1学科ずつの説明が載っており、周りを壁で囲わないことで開放的かつ気軽に入りやすい空間を目指しました。

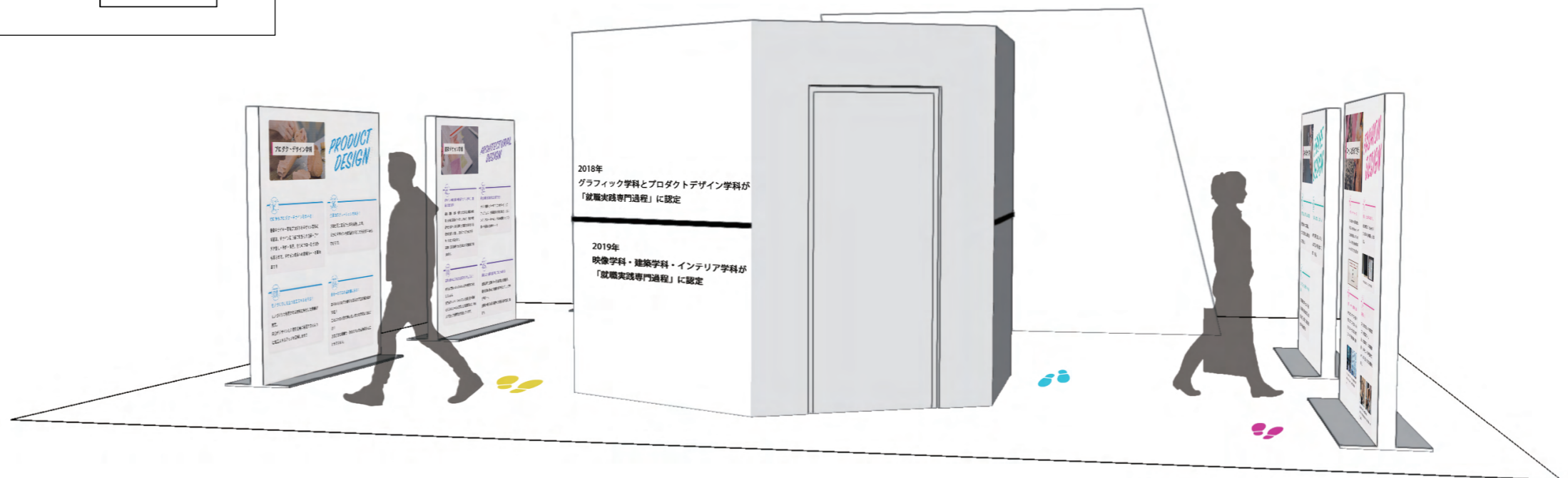
また、中央の六角形の空間はバックヤードとして利用できます。外側には東京デザイナー学院の歴史が書かれており、バックヤードっぽくない雰囲気を壊さないデザインです。

そして、何通りもの可能性がある未来に向かって一步踏み出すという意味を込めて、床にはカラフルな足跡を取り入れました。



- ① … モニターと椅子
- ②～⑥ … 学科紹介パネル
- ⑦ … バックヤード / 外側は学校の歴史の紹介

背面側のイメージパース





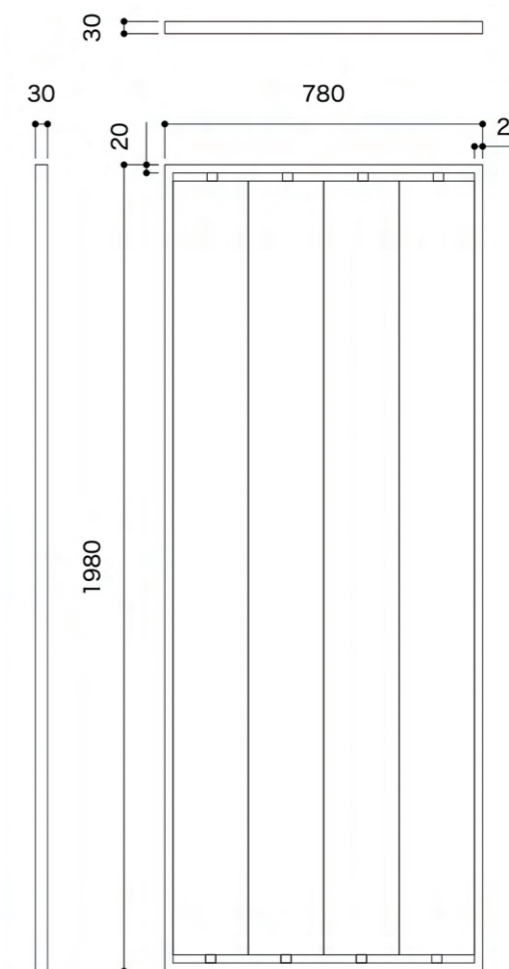
「繋がり」をコンセプトに新しい扉のデザインを考えました。この扉は、ルーバーを回転させることのできる引き分け戸で、全ての面を平らにすることで左右に開くことが可能になります。

ルーバーを回転することによって扉自体は閉じたままでも隙間が空き、「扉ごしに子供やペットの姿を見守る」「ドアを開けることなく空気の循環が可能」「圧迫感を感じさせずに空間を仕切る」などの使い方ができます。

このアイデアは、流行病の影響で在宅ワークが増えたという点をきっかけに思いつきました。幼い子供がいる家庭での仕事は、子供にも意識を向けながらの作業になると思います。勝手に仕事道具を触られてしまった、汚されてしまった、なんてこともあると思います。

そこで、お互いの姿は見えていても仕切りがあることによって行動の制限はできる、そしてもちろん扉としての役割も果たせるという構造を試行錯誤してかたちにしました。





ルーバーの間隔、素材の変化



ルーバーの間隔、素材の変化 (ランダム)



素材の変化 (黒板)

◁ バリエーションイメージ